思ひまた

松岡隆子

告ぐる人なくて初夢すぐ忘れ

薺粥すこし冷まして供へけり

初すずめ沓脱石の日を散らし

絵馬掛に日差しの跳ぬる七日かな

早梅のほどよき数の仰がるる

探梅の坂の途中で呼ばれけり

寒梅の紅きに声を虔めり

水あをし蒼しと傾ぎ野水仙

思ひまた水仙の香に目つむりて

綿虫とゐて人声を遠くせり

綿虫のふいに消えたる滝のまへ

寒禽の声の中なる帰心かな

本号を読み昨年の初句会が7日だったことを思い出した。今年の初句会は大寒の20日。二十日正月でもあり、新年の祝い納めの日である。どんな句に出合えるか楽しみである。とは言えこのところ身辺の些事にかまけて全く句が出来ない。思いたって近くの公園に出かけた。最寄りの駅で能登半島地震の募金の呼掛けに足が止まった。乳母車を引いた若い母親に続いて聊かの浄財を投じた。年頭に起きた大地震は正月気分を一掃した。日々報道される被害の拡大に心が痛む。被災された方々に心よりお見舞い申し上げるとともに一日も早い復興をお祈りする。